



2010.2.17.N0583

## 羽生 RC パスト会長卓話 “ 盛和塾で学んだこと ”



\* 講演中の小沢司和 羽生 RC 会員

羽生ロータリークラブ、パスト会長。「盛和塾」埼玉支部チャーターメンバーの一人であり、現 2570 地区 職業倫理委員会委員



棚澤会長と握手をする小沢パスト会長



人として望まれる経営、企業倫理とは何か、心を高める労働とは何か、人としての生き方、人生哲学にも通じる盛和塾のエキスを、寓話を添えて分かりやすく講演して下さいました。



**熊谷青年会議所 まちづくり実践委員会委員長新井崇様**

「私たちの愛する町、熊谷をより良くするために皆さん一人ひとりの力をお借りしたい。緑を増やし豊かな町作りを目指しています。」



2月20日日本庄グランドホテルにて職奉セミナーがありました。  
棚澤会長、李プログラム委員長、植竹会報・広報委員長が参加

記念品を受け取る新井委員長



2月17日

会員数	出席	欠席	MU	出席率
27	18	7	2	74.1

感謝

河崎克彦  
ニューヨーク駐

1. 歓迎夕食会

乾杯の後、歓談がはじまりしばらくして、塾長がハワイ塾生に囲まれたテーブルで、持ち上がったJAL CEO就任に関する話題に集中した事もあり、塾長が席を立たれ、参加塾生全員に話をしてくださいました。  
下記は、塾長のお言葉を一語一句、そのまま記させていただきます。

<歓迎懇親会での塾長、JAL CEO就任についての貴重なお話>

皆さん、今晚は。(全塾生より盛大な拍手歓声)

なんか話をしなければ、おさまりがつなくなっていました。

この19日という日は、JALのご承知の通り会社更生法適用で企業再生支援機構が乗り出してJALの再生をするという、その日になっておりました。この19日という日でなければですね、JALのいわゆる財政的な問題で破綻をするという可能性があったものですから、19日にたったようですが、私に企業再生支援機構さんと政府の方から、再建のためにCEOという、その最高責任者になって欲しいという依頼がありました。この19日と云う日はどうしても、盛和塾ハワイの(ここで塾生大歓声がしばらく続く)開塾式が決まっておりましたので、私は

「誠に申し訳ありませんが、ボランティアでやっております盛和塾のハワイの開塾式でございますので、19日の日はどうしても日本におられません。そう言う関係でJAL再建のための管財人になることは、私は辞退させていただきます。弁護士さんと企業再生支援機構の方々で管財人をやってください」と

「私は引き受けるにつきましては、盛和塾もありますので、フルタイムでJALの仕事をするわけには参りません。誠に申し訳ございません。週に3日程度の仕事をやらせていただこうと思っています。」

お受けする理由は、現在の日本の経済が最低に来ておりますので、その中で日本で一番大きな航空会社であります。また非常に大きな組織を持ってますJALが倒産ということになったのでは、日本の経済にも、世界の経済にも大きなインパクトを与えると思いますので、それを救うということであれば世界的にも大意義のあることであるので、引き受けさせていただきます。

二番目の理由は

「従業員の方々が大変不安に思っておられますので、その社員の方々を救う為に私はやらせてもらおうと思っております。」(全塾生より大拍手)

さらに申し上げて、

「フルタイムで働くわけには参りませんが、平均すると週3日くらいの勤務になると思いますけれども、そう言うことで、辞手を言わせていただきますので、私は給料は一切要りません。無給でやらせていただきます」ということを申し上げました。

今までの仕事がいっぱいある中で、それを差し控えてJALの再建に向けて一生懸命頑張っていくと、こういう風に思っております。

今回も、一日だけはオプションツアーで、皆さんと一緒に遊びたいと思っておりましたが、それも出来ませんで、明後日、澄みましたら、とんぼ返りで、日本に戻って25日からJALに行きまして、新しい経営陣を選ばなければなりませんので、幹部の方々とインタビューをして、新しい社長以下、幹部の方々を任命しなければならぬという大きな仕事があります。そしてそれが終わりましたら、2月1日から正式にJALの会長として就任しようと思っております。

きょうは、もともと、私、盛和塾の塾長として、皆さんと一緒に時間を過ごさせていただきたいと思っております。(塾生一同、大喝采)

歳がいつてますし、この1月、正式には私の誕生日が、1月21日なんです。え、あの、戸籍上では1月30日ですけども、78になりますから、ほんとうにもう、おじいさんなわけですが、あと残り少ない人生だと思っております。何とか世のため、人のために尽くすという事が、人生にとって一番大事だと、かねてから言って来ておりますだけに、今回、最後の大事な仕事としてJAL再建に邁進して行きたいと思っております。

どうぞ、盛和塾の皆様方、あの、どうぞ、ご声援をお願いいたします。

(全塾生からのスタンディングオベーション)

小沢司和様よりの資料



## 第 22 回会長挨拶

棚澤 正行

皆さんこんばんは、前回の会報にも出ておりますが、先週の 13 日（土）に筍亭にて次年度の高田会長の年度の理事役員の初顔合わせがありました。

次年度は、澤田ガバナー補佐が活躍する年度でもあり、IM という大きな行事も控えております。

高田会長の意気込みと澤田ガバナー補佐の意気揚々とした意気込みを伺ってきました。

今年度に MU に他クラブへ行きたいと考えております。どこへ行くか検討中ですので皆様のご意見をお聞かせいただければと思います。

来週の 24 日（水）の昼に東 RC へ MU に行つてこようと思います。

来月の 3 月 24 日に予定しております東 RC との合同例会の打ち合わせとご挨拶をして来るつもりです。また、このところ会員増強に成功しているコツを井桁会長に教えて頂こうとも思います。渡邊幹事が言い出しっぺで、今のところ私と二人です、ご一緒できる方おりましたら宜しく願います。

米山と財団をまぜている方もいるみたいですので、財団に関しては澤田地区委員より先週お話がありましたので、今日は米山について少しお話をさせていただきます。

米山とは

財団法人ロータリー米山記念奨学会は、勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間の奨学団体です。

## 米山奨学会沿革

1952.12 日本最初のロータリー・クラブを創立した米山梅吉氏の功績を記念して、東京ロータリークラブが米山奨学制度を設置。東京ロータリークラブの会員および関係会社より募金された約 260 万円によって、海外から大学院課程の学生 2 名を招致し、2 年間奨学金を支給し、勉学と国際理解の促進に資することを目的に発足。

1953 米山基金として募金を開始。

1954.9 奨学生第 1 号としてタイのソムチャード君来日。

1956.10 第 60 地区および第 62 地区の年次大会に際して、米山基金を地区内クラブの合同事業とし合意。

1957.9 国内全クラブの合同事業として「ロータリー米山奨学委員会」が結成され、全国的な組織となる。  
その後、「月に煙草一箱を節約して」という合言葉によって、会員 1 名あたり月額 50 円の寄付金を募る運動がスタート。

- 1958.4 「ロータリー米山奨学委員会」として全国の大学より8名の奨学生を採用。
- 1959.2 世話クラブ制度を設置。
- 1960.1 会名を「ロータリー米山記念奨学会」と改称。
- 1967.7 文部省からの設立許可が下り、財団法人ロータリー米山記念奨学会(基本金3千万円)発足。(奨学生 6カ国、59名)
- 1971.2 米山カウンセラー制度が設置される。
- 1975.8 米山週間を4月22日~28日とする。
- 1978.10 米山への寄付金の免税措置が認可される。
- 1983.8 10月を米山月間とする。
- 1998.4 基本金50億円、特別積立金42億円。日本最大の奨学団体となる。
- 1998.10 1999年4月採用から、ロータリークラブの所在の有無による国籍別の資格制限がなくな

る。

2001.10 2002年4月採用から、大学推薦制度を実施。

2001.11 日本の留学生受入れ制度100年記念にあたり、文部科学省から留学生交流功労団体として表彰される。

(2004年、奨学生38カ国、1005名 累計奨学生96カ国、11,542名)

### 目的

学問、技術への研究に重点を置き、母国に限らず国際社会で活躍する留学生を奨学することにあります。学業はもちろんのこと、異文化理解、コミュニケーション能力、地域交流・ボランティア活動に意欲のある優秀な留学生を支援します。奨学生はロータリー・クラブを通して日本の文化、習慣などに触れ、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人となることが期待されます。

### 特色 ~ 世話クラブとカウンセラー

米山奨学金には、奨学金による経済的な支援だけでなく、ロータリー・クラブによる世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援があります。

世話クラブとは？

日本には約2,300のロータリー・クラブがあります。その中の1クラブが米山奨学生の世話クラブとなります。米山奨学生は世話クラブの例会に出席し、ロータリアンとの心のふれあいを通して、国際・文化交流および相互理解を深め、ロータリーの奉仕の心をとともに学びます。このような点から米山奨学生は、世話クラブの例会に出席し、積極的にロータリアンとの交流を深める努力が必要とされます。

カウンセラーとは？

世話クラブのロータリアンの中から、奨学生の米山カウンセラーが決められます。カウンセラーは、奨学生の個人的なケアにあたります。様々な職業、世代で構成されるロータリー・クラブでの交流は、奨学生が日本文化に接し、将来や奉仕について考える機会となります。それは、ロータリアンにとっても同様です。米山奨学生とロータリアンの交流は、相互理解のみならず、双方にとって財産となるものです。

### 奨学生募集システム

昨年まで一部の地区で施行してきた奨学生選考システム「大学推薦制度」が、今年から全国で施行されることになりました。大学推薦制度とは？

大学から米山奨学生にふさわしい応募学生を推薦してもらう制度です。応募学生は、在籍する大学での選考と、ロータリーの地区選考委員会による選考の、2段階の選考を受けることとなります。

当クラブもゾン・ミンリン君といって、マンマーのからの奨学生を預かったことがあります。

ます。彼は青少年交換の学生とは違い、社会人ということもあり、中々の好青年でした。

今年の4月より、先日の持ち回り理事会で承認されました「中国の金善花」さんを預かることになっております。

榎本会員がカウンセラーを引き受けてくれました。毎月第一例会に出席することになると思います。皆様ご指導ご協力の程宜しくお願い致します。

小沢さん、卓話宜しくお願いします。

以上

## 幹事報告

渡邊 藤男

1. 地区より
  - \* 「ロータリー国際囲碁大会」の韓国開催のお知らせ
  - \* 3月のロータリーレート 1ドル=90円
2. 財)ロータリー米山記念奨学会より
  - \* ハイライトよねやま120
3. 熊谷市美術家協会
  - \* 第45回記念熊谷市美術展授賞式の開催について(ご案内)

以上が届いております。

## 卓話・盛和塾で学んだこと

羽生 RC パスト会長 小沢司和様

今日は私のつたない卓話を聞いていただくは大変心苦しいのですが、李先生から何度もお声がけいただき、「ロータリーにNOはないんだよ」と言われましたので、やらせていただきます。

いつも兄、島崎がお世話になっております。また榎本先生もおり同級生がいますのでやりづらいですね。

また、今年は2570地区の職業倫理委員会へ出向しておりますので、先日の1月30日の地区の委員会においでいただきありがとうございました。

本題ですが、李先生は今年プログラム委員長だそうで「小沢は盛和塾に入っているのだから～稲盛和夫に学んで～と言う題目でやってくれ」と言われましたので、其れを中心に話をさせていただきます。ですが時間の関係でそこまでたどり着くか判りませんが、話させていただきます。

「盛和塾」の紹介ですが、お手元に入会用のしおりがあると思いますが、

もともと京都の若手経営者（京都JCの経営委員会のメンバー）が、京セラの稲盛和夫名誉会長から人としての生き方「人生哲学」、経営者としての考え方「経営哲学」を学ぼうと、1983年に集まった自主勉強会「京都盛友会（現・盛和塾）」に端を発しています。

真剣に学ぼうとする塾生とそれにこたえようとする稲盛塾長が、互いに魂の火花を散らす人生道場となっています。また、塾生どうしの

切磋琢磨の場として、全国各地（海外も）の盛和塾に多くの経営者が熱心に集まり活学しあっています。

稲盛塾長は心ある企業経営者こそが明日の日本を支えるとの信念に基づき、ボランティア活動としての盛和塾に熱心に取り組んでいます。

今全世界に60塾（海外米・中国・ブラジル等7塾）に5,000人を越える塾生がいます。塾長はすべてボランティアとして教えていただいています。

私は埼玉盛和塾ができる時に入会しましたので、今年で16年目になります。そのときのチャーターメンバーは65人いましたが、今では4人となってしまいました。

盛和塾では決して会社経営のためのノウハウを教えてもらうことは一切ありません。あくまで経営者個人として人間としての生き方や会社という法人としての社会での生きかたを学んでいます。この根本を元に塾生が職種を越えて、塾生個人の経営上の問題点や、悩みなどをアドバイスしたりしています。

これが盛和塾の紹介となります。

話は変わりますが、私は5才のときに1度死んでいます。ペニシリン注射のショックで心臓が止まり救急車で救急病院に担ぎ込まれ、その後蘇生しました。

そんなことが深層心理にあるのか判りませんが、輪廻転生があり、「人はこの世にこの形を持って生かされている」のであり、本質は物体ではなく、「心」であると常に思っています。自分の生きている意味は未来永劫に磨かれた魂を祖先より受け継いで、子孫にバトンタッチをしていくものだと考えています。

そのためにいま、自分がなすべきことは何か？



と自問自答しながら、「働く」と言う修行を通して魂をみがくことだと思っています。

何のために働くのか？

「生活の糧を得るため」と言うことはもちろん生きていくために必要な報酬を得ることが働くことの大切な理由の一つであることは間違いありません。

ただ、私たちが一生懸命働くのは、それだけではないはずです。

それが先ほど話した「働く」ことで「自らの心を高めて魂を磨くこと」だと考えています。

働くことは人間を鍛え、心を磨き、「人生において価値あるもの」をつかみ取るための尊く、もっとも重要な行為であると考えています。

ドイツの方でも「労働の意義は、業績の追求にのみあるのではなく、個人の内的完成にこそある」と言われています。働くということの最大の目的は、労働に従事する私たち自身の心を錬磨し、人間性を高めることにある。つまり、ただひたむきに、目の前の自分のなすべき仕事に打ち込み、精魂を込めて働く。そのことで私たちは自らの内面を耕し、深く厚みのある人格をつくりあげることができると言われているのです。

「働くことが、人を作る」すなわち日々の仕事にしっかりと励む事によって、自己を確立し、人間的な完成に近づいていく、ということです。

また、南太平洋のニューブリテン島（第二次世界大戦の時に日本が占領したあの「ラバウル小唄」で有名な島です。）のある未開部族の村落では、「労働は美德」という考えがあるそうです。そこでは、「よく働く事が、良い心をつくる」「良き仕事は、良き心から生まれる」というシンプルな労働観を中心に生活が営まれ

ているというのです。

その村落のおもな労働は、焼き畑農業によるタロイモの栽培です。

そこには「仕事は苦役」という概念が全く存在しないのです。村人たちが働くことを通じて目指すものは、「仕事の美的成就」と「人格の陶冶」、つまり、美しく仕事を仕上げること、そして、其れを通じて人格を磨くことだと言います。

村人たちは、畑の配置、作物の出来映え、土の匂いといったものを評価し合うのだそうです。たとえば、よい匂いのする畑は「豊穡」であり、悪い匂いのする畑は「不毛」といった具合です。

このようにして、畑作を立派に仕上げた人は、村人全員からその「人格の高まり」について、高く評価される事になります。つまり、労働の結果である畑や作物の出来映えを通じて、その人間の人格の高さが判断されるのです。畑仕事を立派に行った人、すなわち「いい仕事」をした人は、人格的にも「高い人」であり、まさに「人格者」とあるという評価を受けることになります。

彼らにとって、働くことは生活の糧を得る手段であると同時に、心を磨き、人間性を高める手段でもあるのです。「いい仕事は、いい人間によってなされる」という、シンプルですが大切な労働観が、厳然と原始社会から生きているというわけです。

こういう話を聞くと、懸命に働かなければ生きていけない原始社会のほうが、労働の本来の意義を正しく理解しているように思えます。

皆さんは洪沢栄一賞はご存じだと思います。今年第7回の受賞者に「日本理化学工業株式会社」が選ばれました。さらに今回の鳩山首相の所信表明演説の中にも登場し、一躍脚光を浴び



た会社です。この演説のコピーもお手元にあると思います。この会社は「日本でいちばん大切にしたい会社」の一番目にくる会社です。粉の飛び散らないチョコレートが国内シェアトップ(30%)を作っている社員50名の会社ですが、このうち75%の社員が知的障害者です。

この会社の大山社長が昭和35年から知的障害者を社員として雇用したときに、「ちゃんと守ってくれる施設があるのに、わざわざうちのような工場で1日中働かせる事に、どこか後ろめたさを感じていた。」というのです。

そんなとき、東武動物公園の「カバ園長」で有名な西山登志雄さんから聞いた言葉で、「動物園で育った動物は、自分の生んだ子供でも、育てようとしません。子育ての本能まで忘れてしまうのです。」と聞いたのです。

動物園で決まった時間にえさを与えられ、他の動物から子供を守る必要もない環境に慣らされると、いつしか子育ての本能まで失ってしまうのです。

このとき大山社長は養護施設のことを考えたと言います。

施設で大切に保護されることが、必ずしも本人にとってよいとは限らないのか？一般社会で仕事をした方がいいと言うことだろうか、と悩んでいたそうです。

そんなとき住職と話をしたときに、こんな質問をしました。「うちの工場には知的障害者の人たちが働いているのですが、どうして彼女たちは施設より工場にきたがるのでしょうか」そのときに住職はこのように答えました。

「人間の幸せは、ものやお金ではありません。人間の究極の幸せは、次の4つです。

その1,人に愛されること。その2,人にほめられること。その3,人の役に立つこと。その4,人から必要とされること。そのうち2,人に誉められること、3,人の役に立つこ

と、4,人に必要とされることは、施設では得られないでしょう。この三つの幸福は、働くことによって得られるのです。障害者の方たちが、施設で保護されるより、企業で働きたいと願うのは、社会で必要とされて、本当の幸せを求める人間の証しなのです。」

「国字」とは日本で作られた漢字のことです。「働」も国字ですが、これを「人が動く」から働くというのではなく「人の為に動く」から誉められ、人の役に立ち、必要とされるからです。

海外ではどのように知的障害者を雇用しているかということ、イギリスのクロイドン(?)という町ではデイケアセンターが障害者を企業に出勤させ、出来高で企業から報酬を受け取る方式です。その方が障害者の張り合いにもなるし、能力も向上するからです。

ベルギーでは企業が知的障害者を雇用して、最低賃金である月3万ベルギーフラン(日本円で約10万円ぐらい)を支払うと、その分を国が企業に対して補助します。しかも重度障害の場合には4万5000ベルギーフラン(約15万円)に加算されます。つまり、知的障害者を雇用したために発生する企業の経済的負担は、そのお金で相殺してくださいということです。

行政がお金をかけて施設でケアするよりも、企業に最低賃金分を支払って雇用してもらう方が合理的なのです。日本に置き換えてみると、日本で障害者を20才から60才まで福祉施設でケアした場合、1人あたり約2億円の社会保障費がかかると言われています。

単純計算すると1人あたり年間500万円の負担です。もしこれをベルギー方式にすると、最低賃金703円とした場合、国の支出は1人年間約140万円で済みます。

この給料のなかから月6~7万円を支払っ

てグループホームに入居すれば、障害者は地域で自立した生活を送れます。グループホームなどへの公的負担を考慮しても、公費の負担軽減になります。

福祉が「働く場」をつくるために使う公費を企業に振り向ける。これにより国の負担を減らしつつ、企業は障害者を雇用しやすくなり、障害者は多くの「働く場」を獲得できます。まさに「三方一両得」の妙案です。

皆さんは「積善の家、余慶有り、積悪の家、余おう有り」ということわざをご存じだと思います。良いことをしている家系には子孫に良いことがおとずれ、悪いことをしている家系には子孫に災いがふりかかる、という意味ですが。

かつてアメリカ政府で家族に関するおもしろい調査をやったことがあります。

其れは非常に悪質な家族と、その反対に優れた家族の、血統・遺伝を追跡調査したものでありますが、其れを読むと、本当に「積善の家、余慶有り、積悪の家、余おう有り」とあいうことわざが歴然たる事実であることを実証しています。

まず悪質な家族としてあげられているジュークの家系。

ジュークは1720年にニューヨークの片田舎で生まれた怠惰な無頼漢であるが、彼から6代の間に約1,200人の子供が生まれている。その中300人が赤ん坊の時に死に、310人が極貧のため収容所に入れられ、440人が病的な不良（女の子は過半数が売笑婦）、130人が監獄にはいる、といった有様で真面目な職業に就いたものはわずか20名に過ぎません。

これに対して優れた家族のエドワーズ家のほうはどうか。

初代のジョナサン・エドワーズは、1700年の初頭に生きたアメリカの代表的な神学者で

すが、1900年はじめの調査によると、判明した子供の数は1,394人で、その中の1,295人が一流の大学を卒業し、3人が大学総長、65人が大学教授、100人以上が牧師・神学者、60人が作家・新聞記者、法律家になったものが100人以上もあり、その他30人が裁判官、80人が官公職につき、その中には副大統領や上院議員になったものもある。というふうにそれぞれみな社会の人から尊敬を受ける地位について、繁栄しています。

そういうことを考えると遺伝というものはいかに恐ろしいものであるかということがよくわかるのであります。

最後に私が今、座右の銘にしている稲盛塾長の言葉を紹介させていただきます。

これは、私が小学校のPTA会長のときに卒業式で卒業生にはなむけの言葉としてお話をさせていただいた言葉で、自分自身の生き方の原点です。

人生・仕事の結果 = 考え方 × 熱意 × 能力という方程式です。

「能力」は多分に先天的なものである。両親からあるいは天から授かった知能や運動神経、そして健康などがこれにあたり、生きて行くにあたっての大きな資産となる。

人生という長丁場で、浮き沈みはいくらでもある。そのなかで頑健であるということは、やはり大きな財産となる。しかし、その健康についてさえ、先天的な要素が多分にあり、個々人が全面的に責任を持てるものではない。

その天賦の才ともいえる「能力」を点数で表せば、個人差がありそれこそ0点から100点までである。

この「能力」に「熱意」という要素を掛ける。「熱意」あるいは努力と言い換えてもよいが、

これに関しても、やる気や覇気の全くない無気力な人間から、仕事や人生に対して燃えるような情熱を抱き、懸命に努力する人間まで、やはり個人差があり、0点から100点までである。この「熱意」は、自分の意志で決めることができる。

そして、残る「考え方」が最も重要な要素となる。「考え方」とは、その人の魂から発するもので、生きる姿勢と言ってもよい。この姿勢が人間として正しいものかどうか問われてくる。先ほどの「能力」や「熱意」が0点から100点までであるのに対して、「考え方」はマイナス100点からプラス100点まで大きな振幅がある。否定的な「考え方」を持った人の人生が、ネガティブな結末を迎える事が非常に多いこともこれで説明が付く。

この「能力」「熱意」「考え方」の3つの要素を掛け合わせるため、人生や仕事の結果は大きな違いとなって表れてくる。

健康であり、運動神経が発達し、その上頭も切れる、たとえば「能力」が90点という人がいるとする。しかし、この「能力」90点の有能な人が、「自分は頭もいいし、スポーツもできるし、健康だ」などと過信して、真面目に努力することを怠るとするなら、熱意は30点だ。能力90点に熱意を掛けて、この人は2700点という数字にしかならない。

一方、「自分は平均よりちょっとましな方で、能力は60点ぐらいだ。でも、抜きんでた才能がないだけに必死で頑張らなければならない」と言い聞かせ、情熱を燃やし、ひたすら努力する人であれば、「熱意」は90点となる。そうすると60点掛ける90点で5400点と、先ほどの秀才の倍の結果が出る。そしてこの積のうえに、さらにマイナス100点からプラス100点までである「考え方」が掛かってくる。

世をすね、人を妬み、人をそねみ、まともな

生き様を否定するような、つまり否定的な生き方をするならば、先ほどの方程式において「考え方」がマイナス値となり、「能力」があればあるだけ「熱意」が強ければ強いだけ、人生や仕事において無惨な結果を残してしまう。すばらしい哲学を持つか持たないかで、人生はがらりとその様相を変えるのである。

先ほどの例で言えば、「60点の能力」と「90点の熱意」の持つ主が、人間として正しく善い「90点の考え方」の持ち主であれば、方程式の値は、 $60 \times 90 \times 90 = 486,000$ 点というすばらしく高いものになります。

一方「能力」と「熱意」の値が同じであっても、わずかなりとも否定的な考え方、たとえばマイナス1点の「考え方」の持ち主であっただけで、一転、マイナス5400点となってしまう、さらに反社会的なマイナス90点という、大変悪い「考え方」の持ち主であれば、最終的にはマイナス486,000点という、極めて悲惨な結果を人生で招いてしまうことになるのです。

「能力」や「熱意」の重要性については、誰でも判っているかもしれないが、この「考え方」や哲学が、人生においてどれだけ大切かということは誰も教えてくれない。しかし、この方程式でわかるように、人生においては、正しい「考え方」を持つことが一番大切なのである。

稲盛塾長もこの「人生の方程式」が、仕事や人生の真実を的確に表現したものであり、よりよい人生を歩むための道しるべとなることを、皆さんに断言することができます。といわれています。

この人生・仕事の結果 = 考え方 × 熱意 × 能力 という方程式が私の座右の銘です。

時間の関係ですべてお話できませんでした



が、これで私のつたない卓話を終わらせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

## 社団法人熊谷青年会議所 新井崇様

みなさん、あらためましてこんばんは。  
社団法人 熊谷青年会議所、まちづくり実践委員会委員長の新井崇です。

本日はこのような席にお招きいただき、誠にありがとうございます。諸先輩方がおられるなかで、私のような若輩がお話させていただくのは、甚だ恐縮でございますが、折角このような貴重な機会を頂戴いたしましたので、私どもの活動のご紹介と、来月開催を予定しております講演会のご案内をさせていただきたいと思っております。

今年度(社)熊谷青年会議所は、岡部聡史理事長の掲げる「元気」というスローガンのもと、青少年育成委員会、青年経済人研修委員会、会員拡大委員会、まちづくり実践委員会の4つの委員会で活動しております。その中で、我々まちづくり実践委員会は、日本一あつい熊谷だからこそ、環境への取り組みも日本一と言われるようなまちを目指していこうということで、二酸化炭素を吸収し、人に安らぎを与えてくれる森づくりを行ってまいります。熊谷でもすでにふるさとの森づくりの会の皆様が、大変素晴らしい活動をされておられますが、私たちはそのような活動が、広く個々人の手によって、ご自宅や事業所などの、ほんのわずかなスペースでも行っていただけるように、木を植えることを後押しするしくみを提案していきたいと考えております。ひとりが自宅や事業所に植えることができる木の本数はわずかかもしれませんが、それらが多数集まることで、点と

点がつながって線になり、この地域に暮らす人が自分のまちに対して愛着と誇りを深めていただけるような、みどり豊かな素晴らしいまちになると確信しております。

そのような取り組みの第一歩としまして、3月16日、火曜日、熊谷市立大里生涯学習センター「あすねっと」文化ホールで講演会を開催させていただきます。当日は森づくりの第一人者でおられる、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生をお招きして、地域の森の大切さと、植樹を通じた環境への取り組みについて、熱いメッセージとともに語っていただきます。またその前段では、我々まちづくり実践委員会による、森づくりを支援するアイデアと熊谷の未来像についてのプレゼンテーションをさせていただく予定です。本日、皆様のお手元に、講演会のリーフレットとチケットをお配りさせていただいております。是非、ご家族や知人さまにもお声掛けいただきまして、お誘いあわせの上ご来場いただければと思います。ご多用のところ大変恐縮ですが、何卒、よろしく願いいたします。本日は貴重なお時間の中、お話をさせていただき、ありがとうございました。

## 社会奉仕委員会報告

岡本庄一郎委員長

3月17日(水)午前11時より市内別府沼公園にて恒例の桜苗木の植樹が行われます。奮ってご参加のほどよろしくお願いいたします。



高田委員長

棚澤正行会長・渡邊藤男幹事

羽生 RC パスト会長小沢司和様、卓話の依頼を快諾頂き、またお忙しい中、南クラブへお越しいただき有難うございます。本日は勉強させていただきます、宜しくお願いします。

羽生 RC・パスト会長・小沢司和様

本日は卓話をさせていただきます。卓話は慣れていませんので聞き上手でよろしくご理解下さい。

澤田将信会員

お世話になります。澤田です。本日は羽生 RC パスト会長 小沢司和様、卓話よろしく宜しくお願い致します。

李一孝会員

小沢司和羽生パスト会長様、本日は卓話よろしく宜しくお願いします。

佐川順一会員

小沢司和様、本日は、ようこそ。卓話、拝聴させていただきます。

島崎次弘様

羽生 RC パスト会長、小沢司和様、ようこそ熊谷南 RC へ。大大大歓迎致します！！本日の卓話よろしく宜しくお願いします。

馬場孝会員

小沢司和様、本日の卓話を楽しみにしております。宜しくお願い致します。

石井一則会員

羽生 RC パスト会長の小沢様、当クラブへお越しいただき有難うございます。卓話よろし

くお願い致します。

高田直樹会員

羽生 RC パスト会長小沢司和様、熊谷青年会議所より新井崇様、ようこそおいでいただきました。小沢様には卓話宜しくお願い致します。

[奥様誕生]

奥田尚幸会員

妻に美しい花をありがとうございます。